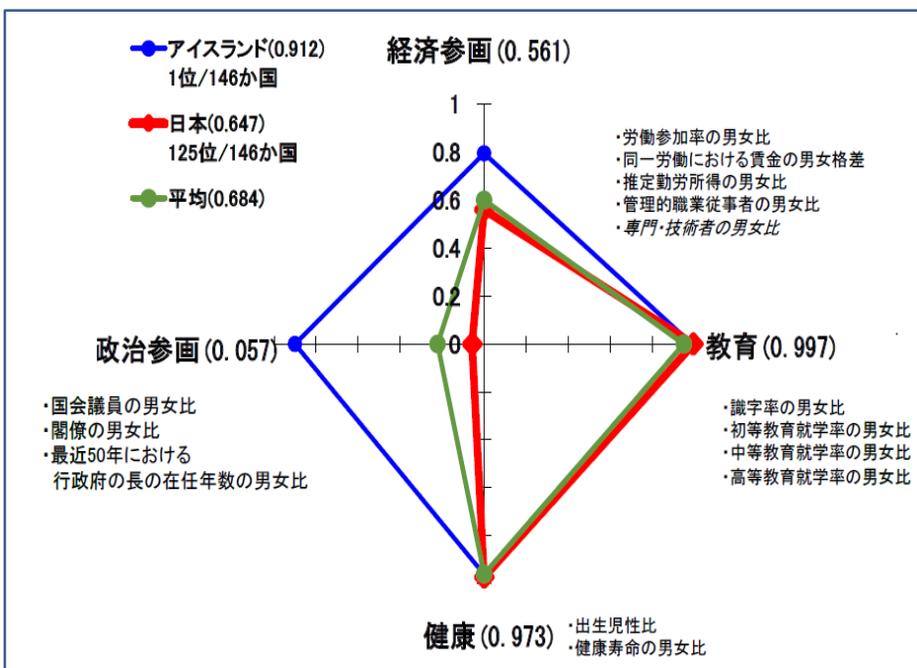


#04 「ジェンダーギャップ指数」ってなんだろう

今回ご紹介するのは、男女間の格差を数値化した「ジェンダーギャップ指数」です。これは、世界経済フォーラムという団体が毎年発表していて、男女間の格差を「教育」、「健康」、「経済」、「政治」の4分野から数値化したものです。日本における男女間の格差が世界的にみてどのような状態にあるのか、今回はこのジェンダーギャップ指数について一緒に考えていきましょう。



<ジェンダーギャップ指数2023年>



日本 **125位** / 146か国

| 教育 | 健康 | 経済 | 政治 |
|-----|-----|------|------|
| 47位 | 59位 | 123位 | 138位 |

「0」→完全不平等
「1」→が完全平等

出典：男女共同参画局

日本の総合順位は146か国中、125位でした。前年と比べスコア、順位もほぼ横ばいとなっています。また、先進国の中で最低レベル、アジア諸国では、韓国や中国より低い結果となっています。「教育」や「健康」については、高い数値ではありますが、「経済」と「政治」の分野で低くなっています。経済であれば、管理職における男女比や賃金における男女間の格差などが対象項目になっています。また、政治であれば国会議員や閣僚の男女比などが対象項目になっています。



4分野からおおまかに捉えると、生まれて学生までの間は、ジェンダーギャップが比較的小さく、仕事を始めるとジェンダーギャップが大きい環境に身を置くことになると読み取れます。つまり「大人」になるとジェンダーギャップが大きくなるイメージです。

「経済」におけるジェンダーギャップの解消には、対象項目となっている管理職や賃金における男女格差の解消が必要になりますが、これらの取組みは「女性活躍推進法」の取り組みそのものです。女性活躍の推進は世界的にも必要な取り組みとなっています。

ただし、これまでの説明のとおり女性にだけ「もっと働け」などと言っているのではなく、男性も含め**社会全体で取り組む**必要があります。

